



スパークス東方投資見聞録

第24号

発行日:2009年10月23日

アジア・ヘッジファンド業界の直近の動向

ハイライト:

- アジア・ヘッジファンドの運用資産残高と本数
- アジアのヘッジファンド戦略の変化
- 最後に

直近のアジア・ヘッジファンドの運用資産残高と本数

世界のヘッジファンドの規模がこの一年で大きく減少していることについては、第22号でご説明しましたが、リーマンショックから1年が経ち、アジアのヘッジファンド業界の規模はどう変化しているのでしょうか。想像通り、アジアのヘッジファンド業界の運用資産残高も2009年7月末時点で約1,000億米ドルと、ピークの2007年末の1,760億米ドルから約43%減少しています。2000年以降、年率約24%で運用資産残高を拡大させてきたアジアのヘッジファンド業界にとって、この一年間での減少は大変インパクトのある出来事であったといえます。しかしながら、アジアのヘッジファンドの数を見てみると、ピークの2007年末と比べて若干減少してはいるものの、現在でも1,200本弱(2009年7月末)の本数を維持しています。これにはいくつかの要因がありますが、主なものとして、一つは2008年までに稼ぎ出した収益の蓄積があること、もう一つはアジアのヘッジファンドの運営コストが欧米のそれと比べて低いことなどが挙げられます。

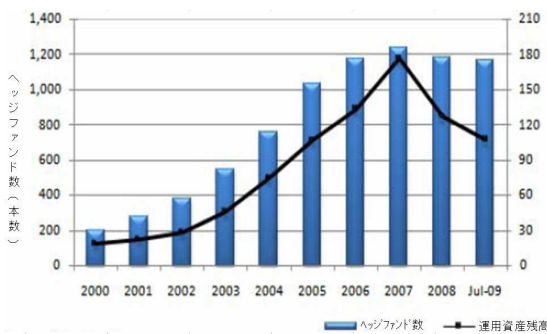
アジアのヘッジファンド戦略の変化

アジアのヘッジファンド業界は、資本市場の拡大、欧米金融機関等のプライムブローカーの進出、またヘッジ手段の充実などにより戦略が多様化しています。同業界では、2004年6月末時点で株式ロングショート戦略の比率が61%でしたが、この5年でその比率は約20%低下し、直近では43% (2009年6月末時点) となっています。これは、アジアでヘッジファンド戦略の多様化が進んでいるからに他ならず、株式ロングショート戦略以外のほぼ全ての戦略の比率が増加しています。特に、アジアにおけるM&Aの増加がイベントドリブン戦略を、また同地域で5年前までほとんど発行がなかった転換社債(CB)の発行がマルチストラテジー、レラティブバリュー戦略、またアービトラージ戦略などの拡大を後押ししていると考えられます。

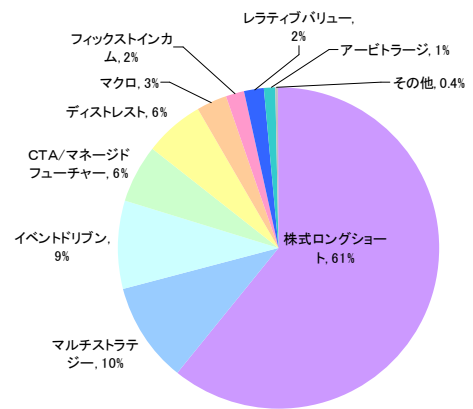
マーケット:

| 騰落率 | 9月 | 年初来 |
|---------------|--------|--------|
| TOPIX | -5.79% | 5.89% |
| 日経225 | -3.42% | 14.38% |
| 香港 | 6.24% | 45.65% |
| 上海 | 4.19% | 52.65% |
| 台湾 | 10.01% | 63.56% |
| 韓国 | 5.11% | 48.79% |
| ベトナム | 6.24% | 84.05% |
| オーストラリア | 5.91% | 27.44% |
| インド | 9.32% | 77.53% |
| シンガポール | 3.07% | 51.72% |
| マレーシア | 2.37% | 37.11% |
| タイ | 9.77% | 59.36% |
| インドネシア | 5.38% | 82.06% |
| フィリピン | -2.89% | 49.55% |
| MSCIアジア(除く日本) | 8.62% | 58.20% |

アジア・ヘッジファンドの運用資産残高と本数 (2009年7月末)



アジアのヘッジファンド戦略内訳 (2004年6月末)



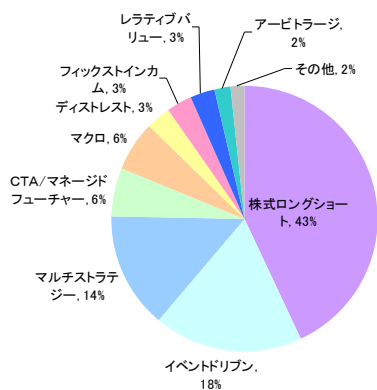
*上記マーケット騰落率に使用している株価指数の詳細については次頁注書きをご参照下さい。

(出所:ユーリカヘッジ)

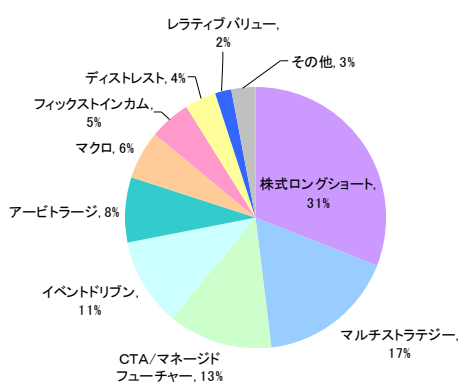
(出所:ユーリカヘッジ)

アジアのヘッジファンド業界の直近の動向

アジアのヘッジファンド戦略内訳
(2009年6月末)



世界のヘッジファンド戦略
(2009年6月末)



(出所: ユーリカヘッジ)

しかし、世界のヘッジファンド業界では、株式ロングショート戦略が2009年6月末時点で31%とさらに低く、ここ数年で戦略の多様化が図られたアジアのヘッジファンド業界ではありませんが、まだまだ多様化は道半ばといえます。こうした戦略の多様化が十分に進んでいないということは、多くの裁定機会が手付かずで残されているとも言えます。今後、戦略の多様化が進む過程で、アジアのヘッジファンドは、このような投資機会を活かして収益を上げていくことが期待されます。

最後に

弊社グループのヘッジファンド調査は、原則、個々のヘッジファンドを1社1社丹念に調査するボトムアップ・リサーチをベースとしております。しかし同様に、ヘッジファンド業界関係者や学術界等のネットワークからアジアのヘッジファンド業界全体のトレンドを把握することも重要な調査活動の一つであると考えております。弊社グループでは、こうした業界のネットワークを活用した調査活動も中長期的に優れたリターンを獲得するために必要不可欠と考えています。

なお、今号をもちまして、当レポートは毎月から隔月への発行に変更させていただきます。引き続き、ご愛顧のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

当資料は、スパークス・アセット・マネジメント株式会社がアジアの経済やヘッジファンド業界の情報を提供するために、スパークス・インターナショナル(香港)リミテッドの協力により作成したものであり金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。この資料は特定のファンドもしくは個別銘柄への投資勧誘を目的としたものではありません。当社およびスパークス・インターナショナル(香港)リミテッドとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものでなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・インターナショナル(香港)リミテッドに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

ホームページもご覧下さい。

<http://www.spargroup.com.hk/>

© 2009 SPARX International (Hong Kong) Limited

*前頁のマーケット騰落率に使用している株価指数の詳細は次の通り。TOPIX: 東証株価指数、日経225: 日経平均株価、香港: HANG SENG INDEX、上海: SHANGHAI STOCK EXCHANGE COMPOSITE INDEX、台湾: TAIEX INDEX、台湾: KOSPI INDEX、ベトナム: VN INDEX、オーストラリア: S&P/ASX 200 INDEX、インド: SENSEX 30 INDEX、シンガポール: STRAITS TIMES INDEX、マレーシア: KUALA LUMPUR COMPOSITE INDEX、タイ: STOCK EXCHANGE OF THAI INDEX、インドネシア: JAKARTA COMPOSITE INDEX、フィリピン: PSEI - PHILIPPINE STOCK EXCHANGE INDEX、MSIアジア(除く日本): MSI AC ASIA PACIFIC EX-JAPAN

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式、公社債および不動産投資信託証券などの値動きのある証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元本を割り込むことがあります。

ロング・ショート戦略のファンドは売建て(ショート・ポジション)取引を行いますので、売建てた株式が値上がりした場合、基準価額が下落する要因となります。また、ロング・ポジションおよびショート・ポジションの双方が誤っていた場合、双方に損失が発生するために、通常の株式投資信託における損失よりも大きくなる可能性があります。

また、ファンドオブファンズ戦略のファンドは、パフォーマンス連動債の発行体に対する信用リスクや、新興国市場への投資リスク、レバレッジの利用によるリスク等、ファンドオブファンズ戦略に特有のリスクも伴います。

上記は投資信託に係るリスクの一部を記載したものであり、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申込みの際は投資信託説明書(目論見書)および目論見書補完書面の内容をよくお読みください。投資信託は、預金商品、保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関は、投資者保護基金には加入しておりません。投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。

追加型公募投資信託に係る費用について

スパークス・アセット・マネジメント株式会社における追加型公募投資信託に係る費用の上限は以下のとおりです。

●直接ご負担いただく費用

| | |
|---------|---------------|
| 申込手数料 | : 上限3.15%(税込) |
| 解約手数料 | : なし |
| 信託財産留保額 | : 上限0.5% |

●投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

| | |
|---------|----------------------------|
| 信託報酬 | : 上限1.995%(税込) |
| 実績報酬(※) | : ファンドにより、実績報酬がかかる場合があります。 |

※実績報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

ご留意事項

上記に記載しているリスクや費用の項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、スパークス・アセット・マネジメント株式会社が設定・運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なります。

投資信託の取得のお申込みをする場合には、販売会社から投資信託説明書(目論見書)および目論見書補完書面をあらかじめお渡ししますので、必ずお受取りになり、投資信託説明書(目論見書)等の内容をよくお読みいただいた上、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第346号
(社)投資信託協会会員 (社)日本証券投資顧問業協会会員